

溶剤Rの拡大を目指す

日本溶剤リサイクル工業会

第12回定期総会を開催

日本溶剤リサイクル工業会（東京・千代田、川瀬泰淳会長）は5月24日、第12回定期総会を開催した。

定期総会では、2005年度の事業・決算報告や06年度事業計画及び予算案が承認されたほか、精製リサイクル数量も報告された。

なかでも溶剤リサイクル現状では、2005年実績でリサイクル原料数が28・8万ト、精製リサイクル量は20・4万トと前年比で2・4%減となる調査結果が報告され



川瀬会長

た。これらの調査を通じて工業会では、外部リサイクルの数量がほぼ横ばいであることから、従来から大気放出されていた溶剤ガスは回収・リサイクルではなく設備投資金額の低い燃焼法などの処理が進んでいると推測。今後とも工業会の活動を通じて、大気放出されている溶剤ガスのリサイクル推進に取り組む方針を固めた。

このほか総会では、シンクタンク・ソフィアバンク副代表の藤沢久美氏を迎え「元気な企業の元気な理由」をテーマにした講演会を開催するほか、工業会が編集した「溶剤リサイクルハンドブック」の出版記念パーティーも行われた。

2006年（平成18年）6月5日（月曜日）

週刊 循環経済新聞